



# 環境経営レポート 第20版

自2024年4月1日～至2025年3月31日  
発行日：2025年6月1日

弊社は2007年4月にエコアクション21の活動を開始して以来、全員で考え、全員で行動することを目標に、活動を積み重ねてきました。

ビジョンに「にんげんいきいき」のひとづくりを掲げ、ミッションを「地域社会に貢献すること」「お客様の課題を解決すること」としています。  
その達成のための施策として「全てに優先『安全・環境・品質』」を掲げ、安全で快適な職場づくりを目指すと同時に、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて、エコアクション21に全員で取り組んでいます。

今回発行する『環境経営レポート』は、2024年度の取組をまとめたものです。



# 目次

1. 会社・事業所紹介	P1~2
2. 実施体制	P3
3. 環境経営方針	P4~5
4. 環境経営目標	P6
5. 環境経営計画	P7
6. 環境教育	P8~10
7. 地域社会との協調・貢献活動	P11~12
8. 環境経営目標の実績及び評価	P13
9. 環境経営計画の取組結果と評価	P14
10. 次年度の環境経営目標、計画	P15
11. 環境関連法規制の遵守状況の確認、 評価の結果、訴訟の有無	P16
12. マネジメントレビュー	P17

# 1. 会社・事業所紹介ーⅠ

## 会社及び代表者名

株式会社ヨコタコーポレーション  
代表取締役社長 横田 勝己

## 会社事業所所在地

### ◆生産事業部、経営管理部

川島本社工場・機械工場  
徳島県吉野川市川島町字辻4-2  
市場工場  
徳島県阿波市市場町切幡字南田64

### ◆流通事業部

エコタウン藍住店  
徳島県板野郡藍住町東中富字拙傍示50-1  
エコタウンアワーズ店  
徳島県阿波市阿波町大道北123  
ハードオフ徳島沖浜店  
徳島県徳島市八万町沖須賀58-4  
ハードオフ徳島末広店  
徳島県徳島市南末広町2-5-1  
ハードオフ神戸玉津店  
神戸市西区玉津町高津橋132-1  
ハードオフ神戸星陵台店  
神戸市垂水区星陵台4-4-31

## 事業の概要

- ◆ベアリングレース及び自動車部品等の旋削加工
  - ◆工作機械、組立機、検査機などのFA設備の設計・製作
  - ◆リユースストアの運営（FC加盟）
- ・・・（精密加工部）  
・・・（機械部）  
・・・（流通事業部）



当社は1960年にベアリングレースの旋削加工を行う製造業として設立されました。

その後、異業種での事業展開を推進し、現在ではベアリングレース及び自動車部品（ミッション他）の旋削加工や省力化・自動化機械の製作を行う生産事業部やリユースストア運営(FC)を手掛ける流通事業部などの事業を多角的に展開しています。

環境に対する取組は、生産事業部では生産性の向上や歩止まり率の向上等を目指して環境負荷低減を推進する事、流通事業部では3Rの考え方から「リユース」を推進して循環型社会の形成に寄与する事、などを環境活動の中心として取組を進めております。

## 事業規模（2025年3月末現在）

- ◆資本金：7,260万円
- ◆売上高：42億円

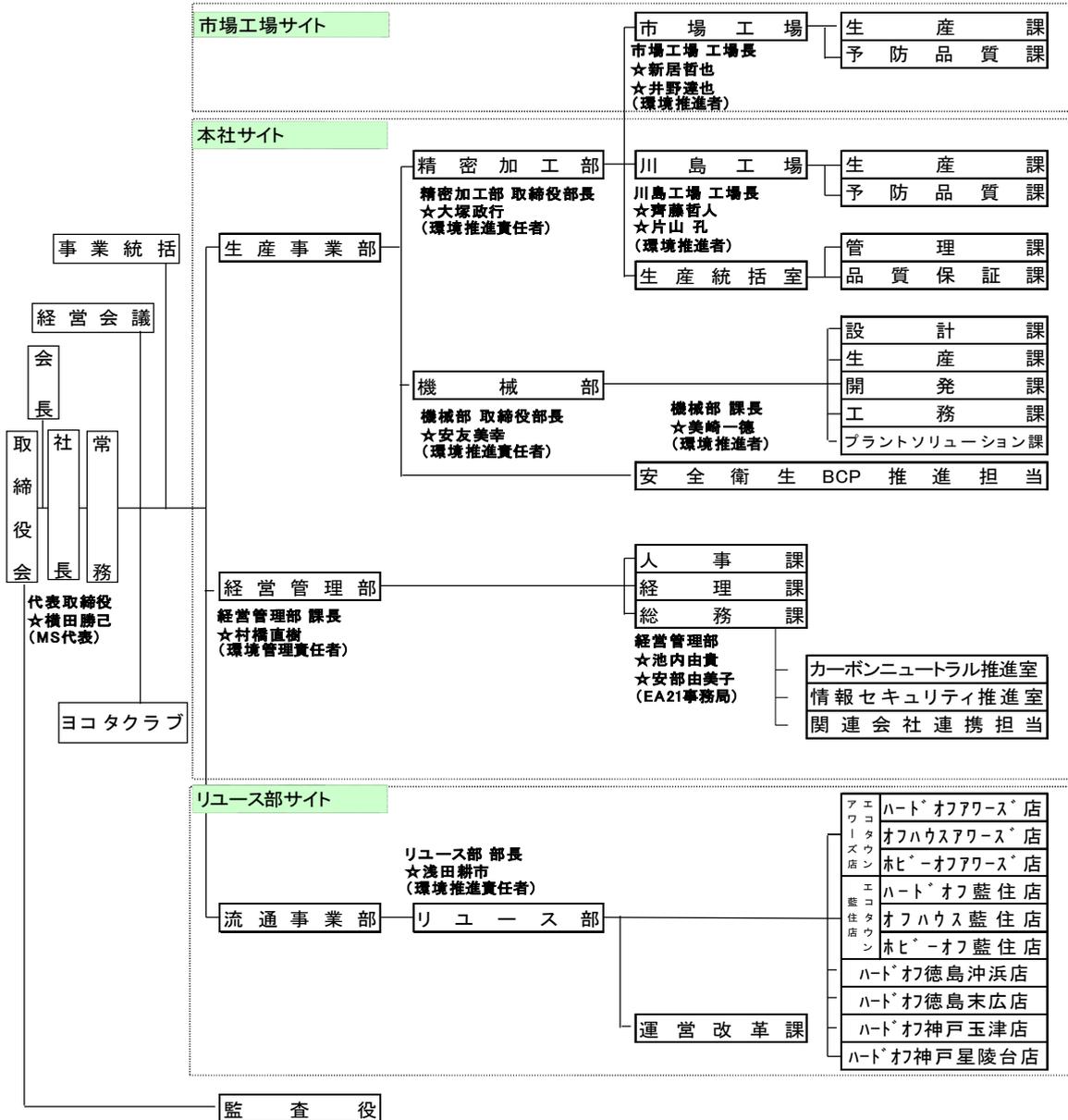
	生産事業部	流通事業部	経営管理部	総計
売上比率	85%	15%	-	-
従業員数	137名	68名	12名	217名
土地面積	25,858㎡	14,996㎡	-	40,854㎡
建物面積	8,206㎡	4,669㎡	-	12,802㎡

# 1 会社・事業所紹介－Ⅱ

## エコアクション21 (EA21) の対象範囲

以下の会社全組織で行われる全活動（組織図:2024年度）

2024年度 実施体制(組織図 及び EA21推進会議の所属部署)



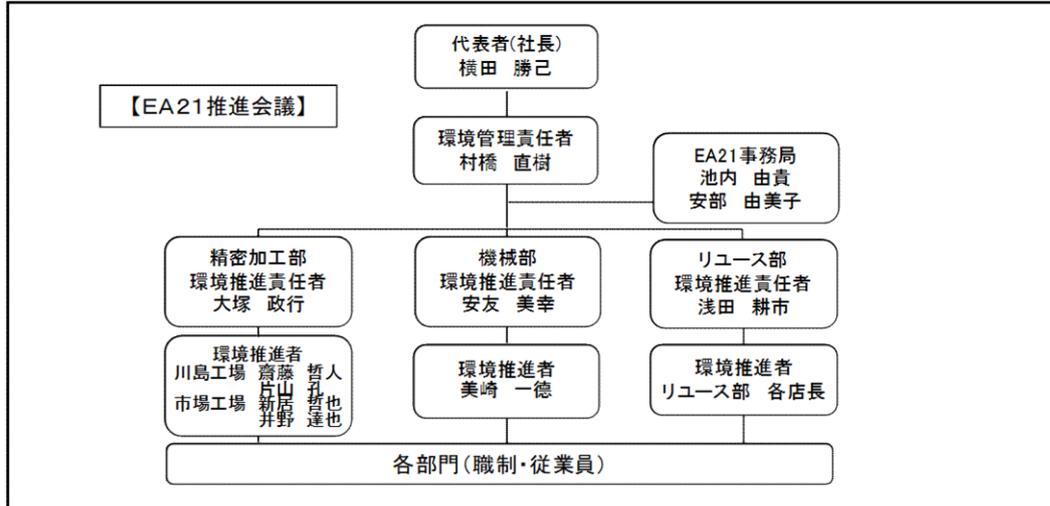
## 環境保全関係の管理責任者・担当者

- ◆環境管理責任者： 経営管理部 課長 村橋 直樹
- ◆EA21事務局： 経営管理部 池内 由貴  
経営管理部 安部 由美子

連絡先： e-mail info@yokota-inc.com  
 (経営管理部) TEL 0883-36-9338 FAX 0883-22-3368

## 2 実施体制

2024年度 推進組織図



役割・責任・権限

	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社のEMSについての総括的な責任と権限</li> <li>経営における課題とチャンス の明確化</li> <li>環境経営方針の決定</li> <li>全社環境経営目標の決定と部門別目標の承認</li> <li>環境経営目標の達成状況について、必要な改善の指示</li> <li>EMSの維持及び運用について必要なインフラストラクチャーを含む経営資源の提供</li> <li>管理責任者の任命と権限の委託</li> <li>EMSに関するマネジメントレビュー</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>EMSの確立、実施及び維持</li> <li>環境負荷、環境取組、環境経営計画の実施、作成の指示と承認</li> <li>EMSの実績及び改善のための提案に関する代表者への報告</li> <li>環境経営マニュアルの変更指示、承認</li> <li>EA21推進会議の統括</li> <li>内部監査チームの指名、実施内容評価</li> <li>環境教育・訓練計画の作成と実施状況・効果の確認</li> </ul>
環境推進責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>新製品、周囲状況の変化などに伴っての、EMSの変更の提案</li> <li>近隣、外部の利害者とのコミュニケーション</li> <li>実施状況のレビュー</li> <li>環境関連法規制の遵守状況の把握(確認と指導)</li> <li>EMSに関する外部関係者(各事業所顧客及び取引業者など)との連絡調整</li> </ul>
EA21事務局 (経営管理部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境マニュアルの作成・変更</li> <li>環境への負荷及び取組の自己チェックの取りまとめ</li> <li>環境経営目標・環境改善項目のとりまとめ</li> <li>環境関連法規制の遵守状況のとりまとめ(情報集約)</li> <li>環境経営レポートの作成</li> <li>内部監査の実施準備/結果取りまとめ、管理責任者への報告</li> <li>環境経営計画書兼ねる進捗管理表による状況報告及び評価</li> </ul>
環境推進者 (店長) (副工場長) (副部長) など	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部門の環境経営目標の設定</li> <li>各部門の環境経営計画の作成</li> <li>各部門の環境改善の指示、指導</li> <li>廃棄物処理の管理・監督</li> <li>各部門の環境教育</li> </ul>
社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営方針を理解する</li> <li>環境経営目標、環境経営計画への推進に協力する</li> <li>必要に応じて環境改善に対する提案を行う(実行する)</li> </ul>
EA21推進会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>年初に決定される会議明細により会議へ参加する委員を決定</li> <li>年4回以上の全体EMSについての会議を開催</li> <li>会議では全社EMSについて協議を行い、決議事項を各々担当部署へフィードバック</li> </ul>

### 3 環境経営方針-I

環境への取り組みの重要度が増している今日の状況を踏まえ、  
弊社では下記の環境経営方針に基づき、地球環境に配慮した企業を目指して  
環境保全活動に取り組んでいきます。

#### **＊＊わたしたちの環境経営方針＊＊** **『瑠璃色の地球を永遠に』**

株式会社ヨコタコーポレーションは、『瑠璃色の地球』の恵み  
『青い空、緑の大地、澄んだ水』を永遠に守るため、地球環境  
にやさしい事業活動を考え、展開します。



私達はEMS(環境マネジメントシステム)推進体制を構築し  
下記方針を定め、全従業員に周知し継続的に環境経営を推進します

1. ベアリング/自動車部品の旋削加工、FA機械の開発設計、  
リユースストアの運営(FC)といった多角的な事業活動において  
環境に配慮した製品・製造工程・サービスの実現に努めます
2. 環境に関する法令及び法規制の遵守を徹底します
3. 省エネ/省力化の推進や工程内ロス削減によりエネルギー(電気、  
ガソリン等)の利用効率を上げ、CO2排出量の削減に努めます
4. 3R(Reduce、Reuse、Recycle)を意識し、廃棄物の削減に努めます
5. 水の効率的利用及び節水に努め、総排水量の削減に努めます
6. 「にんげんいきいきのひとづくり」という経営理念のもと  
全従業員がいきいきと働ける職場環境づくりに努めます
7. 環境保全活動への参加や環境経営レポートの公表等を通じて  
地域社会から信頼される企業を目指します



2006年12月1日 作成

2021年 6月1日 改訂

株式会社ヨコタコーポレーション

代表取締役社長 横田 勝己

川島本社と市場工場の間には、水量豊かな「四国三郎 吉野川」が流れております。  
この地域の自然を慈しみ、大切にするという気持ちを行動に表してゆくことが、清流を守り、  
自然を守ることにつながる第一歩になると考えます。

ひとりひとりの行動はささやかでも、環境について真摯に考え、出来ることから取り組んで  
ゆくことが、美しい大地と空、ひいては瑠璃色の地球環境保護への奔流になるという理念の元  
に取り組んでいます。

### 3 環境経営方針-Ⅱ（SDGsへの取組み）

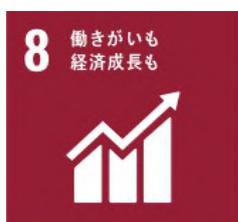
中長期経営ビジョン（YCビジョン2030）の策定に伴い、事業部ごとの、

①目指す方向性 ②重点SDGs ③解決する社会的課題

を明確にして取り組む項目を制定致しました。

#### 【精密加工部】 「日本で1番の旋削会社を目指す」

- SBBでは名実ともにトップの会社を目指す
- 量産品の領域において、旋削技術を磨く
- 安全・環境・品質への取り組みを強化する
- 旋削会社ではNO.1の作業環境構築



#### <解決する社会的課題>

- 多種多様な人材が活躍できる事業
- 障害者雇用
- 高齢者雇用
- 能力に劣る人も活躍できる仕事を作る
- 長時間労働の是正

#### 【機械部】 「自動化技術で人手不足の困りごとを解決する」

- 自動車業界に限らず、自動化の提案を行い、顧客の共通した課題を解決できる自社製品開発を目指す
- AI、IoTの活用



#### <解決する社会的課題>

- 人手不足の解決
- 単純作業からより高度な仕事へのシフト
- 自動車以外の自動化ニーズの深耕

#### 【流通事業部】 「時流に合わせた顧客サービスへの変化」

- 総合生活カンパニーを目指す  
（より広範囲のニーズを解決）



#### <解決する社会的課題>

- 人手不足消費スタイルの変化
- リユースを通じて、ものを大切に使う社会を創出する
- もったいないボランティアプロジェクトを通じた途上国支援を行う
- エシカル消費への取り組み

#### ★EA21の活動における全社共通の関連SDGs



## 4 環境経営目標 (2024-2026)

2021-2020年の負荷実績平均値を元に中長期の環境経営目標 (2024-2026) を設定しています ※事業所の新設、移転等の特殊要因による増減考慮有り

環境目標 (Plan)		目標種別	単位	★参考★ 2023年度 実績	YC計 (YH除く)				
					2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標		
1	二酸化炭素 <生産事業部> 単年2.5%削減 (2021-2030年) 2030年度▲30% 目標にて設定 (2021年度比)	CO2排出量の削減 (1-1~4の合算)		総量	kg-CO2	3,397,384	3,316,108	3,236,990	3,159,788
				原単位	kg-CO2/百万円	1,911	1,892	1,873	1,853
		1-1 電力使用量の削減		総量	kWh	7,327,741	7,150,300	6,977,600	6,809,100
				原単位	kWh/百万円	4,121	4,080	4,039	3,998
		1-2 ガソリン使用量の削減		総量	L	22,057	21,832	21,608	21,388
				原単位	L/百万円	12.4	12.3	12.2	12.0
		1-3 軽油使用量の削減		総量	L	544	538	532	526
				原単位	L/百万円	0.306	0.303	0.300	0.297
		1-4 灯油使用量の削減		総量	L	8,007	7,926	7,846	7,766
				原単位	L/百万円	4.503	4.458	4.413	4.368
2	廃棄物	廃棄物排出量の削減 ※排出少ない(1,000kg未満) 部門は現状維持目標		総量	kg	213,232	211,265	209,169	207,093
				原単位	kg/百万円	119.9	118.7	117.5	116.3
3	総排水量	水使用量の削減 ※排出少ない(200m <sup>3</sup> 未満) 部門は現状維持目標		総量	m <sup>3</sup>	5,666	5,637	5,584	5,531
				原単位	m <sup>3</sup> /百万円	3.19	3.15	3.80	3.76
4	化学物質	化学物質の削減 ※100~150kgにて 現状維持目標		総量	kg	178.1	400.0	400.0	400.0
				原単位	kg/百万円	0.1294	0.2907	0.2907	0.2907
5	自社製品 /サービス	5-1 工程内不良の削減		総量	千円	17,197	14,400	13,800	13,800
		5-2 店舗運営による リユースの買取実績アップ		総量	千円	204,370	213,000	231,000	231,000
		5-3 省エネ対応製品推進 (高効率部品の採用率)			%	90 ≤	90 ≤	90 ≤	90 ≤
6	地域貢献	7-1 周辺地域の清掃活動			-	年三回の実施			
		7-2 環境イベントの実施			-	全員参加			
7	社員教育	環境教育の開催及び 環境改善提案の全員提出			%	63.6	65.0	67.0	70.0

※電力使用量のCO2排出係数は、令和5年度調整後排出係数

四国電力:0.454kg-CO2/kWh、関西電力:0.434 (kg-CO2/kWh) を使用

ガソリン:2.32 (kg-CO2/L) (kg-CO2/L) 軽油:2.58 (kg-CO2/L) 灯油:2.49 (kg-CO2/L)

※原単位(エネルギー使用に密接に関係する値)は全社売上総利益(製造部は加工高)を採用

基準年度(2023年度平均)全社売上総利益:1,778(百万円)

(項目によっては関連部門のみの合算にて計算とする)

★補足

2024/4 ・新規策定

2025/5 ・化学物質の原単位目標計算誤りにて修正変更(全社、3工場)

※目標値は定期的に見直し有り(詳細下記)

# 5 環境経営計画

【2024年度 環境経営計画】

← 主担当部署 →

No.	環境目標	取組項目	(生産事業部 工場長)	(流通事業部 店長)	(経営管理部 経理管理部長)	実施時期 /期限
1	CO2排出量の削減	単位当り生産性の向上による稼働時間の短縮	○			通年
		省力化機器検討と取り組み(機械部品、照明、エアコン)	○			通年
		生産性カイカクの推進実行、作業改善によるムダの排除	○	○	○	通年
		ライン停止時の電源OFF、エアー漏れ削減	○			通年
		稼働時間の抑制とノー残業DAYの実施	○	○	○	通年
		退社時間の短縮、残業時間の短縮	○			通年
		未使用時の電源OFF、冷暖房の基準厳守など	○			通年
		エコドライブ運転の徹底、走行ルート最適化	○	○	○	通年
		定期的な車両の点検	○	○	○	月/2回
		Web会議の推進(移動時間と燃料費削減)	○	○	○	通年
		備品の管理		○		通年
		エアコンの定期清掃、効率的利用	○	○	○	6-10,12-3月
店内換気によるエアコン使用削減		○		通年		
2	廃棄物の削減	刃具、砥石、治工具類の寿命アップ	○			通年
		使用可能部品の再利用	○			通年
		分別徹底によるリサイクルへの排出継続		○	○	通年
		二次リユースの活用		○		通年
		季節商品の売り切り		○		通年
		紙の廃棄量削減、ペーパーレス推進			○	通年
3	総排水量の削減	研削液、切削液の使用改善	○			通年
		生研研削油の再生使用	○			通年
		月の水道利用量を確認し使用量の減少に努める		○	○	通年
		各事業所の浄化槽保守状況管理			○	通年
4	化学物資の削減	SDSの適正管理	○			通年
		化学物質のリスクアセスメント調査	○			通年
		各種置き場の設定と明示	○			通年
5	自社製品/サービス	重点取り組み工程選定継続	○			通年
		積極営業によるリユースの認知度アップ	○			通年
		高効率モーター使用の推進	○			通年
		鍛造取り代削減	○			通年
		省エネ対応機器使用の推進	○	○	○	通年
		SNS活用による買取件数アップ		○		通年
		買取幅を広げた柔軟な買取		○		通年
		出張買取促進による買取金額アップ		○		通年
事務局業務の習熟			○	通年		
6	地域社会との協調	地域への清掃活動	○	○	○	通年
		CSR推進	○	○	○	通年
		SDGsの取組推進	○	○	○	通年
7	社員教育	環境への取組についての広報	○	○	○	通年
		環境改善提案推進	○	○	○	6月
		緊急時の対応と訓練	○	○	○	9,1,3月
		ピカピカ運動の推進	○	○	○	通年
		環境関連法令の知識習得		○	○	通年

# 6 環境教育の取組みーⅠ

- (1) 入社された方全員と「環境への取組」について学んでいます  
 「環境への取組」という集合研修に出席頂き、当社の環境への取組について一緒に学習しています。  
 簡単な事でも、できる事から、すぐに始める事をお願いしています。

新しく入社される みなさんへ

～～環境負荷低減について、今日からいっしょに始めましょう～～ (エコアクション21活動の推進)

**\*\*わたしたちの環境経営方針\*\***  
**『瑠璃色の地球を永遠に』**

株式会社ヨコタコーポレーションは、『瑠璃色の地球』の恵み『青い空、緑の大地、澄んだ水』を永遠に守るため、地球環境にやさしい事業活動を考え、展開します。



私達はEMS(環境マネジメントシステム)推進体制を構築し下記方針を定め、全従業員に周知し継続的に環境経営を推進します

1. ベアリング/自動車部品の旋削加工、FA機械の開発設計、リユースストアの運営(FC)といった多角的な事業活動において環境に配慮した製品・製造工程・サービスの実現に努めます
2. 環境に関する法令及び法規制の遵守を徹底します
3. 省エネ/省力化の推進や工程内ロス削減によりエネルギー(電気、ガソリン等)の利用効率を上げ、CO2排出量の削減に努めます
4. 3R(Reduce, Reuse, Recycle)を意識し、廃棄物の削減に努めます
5. 水の効率的利用及び節水に努め、総排水量の削減に努めます
6. 「にんげんいきいきのひとづくり」という経営理念のもと全従業員がいきいきと働ける職場環境づくりに努めます
7. 環境保全活動への参加や環境経営レポートの公表等を通じて地域社会から信頼される企業を目指します



2006年12月1日 作成  
 2021年 6月1日 改訂  
 株式会社ヨコタコーポレーション  
 代表取締役社長 横田 勝己

当社はビジョンの一つに「地域社会に貢献できる企業」を掲げています。本社工場と市場工場の間には、水量豊かな「四国三郎 吉野川」が流れております。この地域の自然を慈しみ、大切にするという気持ちを行動に表してゆくことが、清流を守り、自然を守ることにつながる第一歩になると考えます。ひとりひとりの行動はささやかでも、環境について真摯に考え、出来ることから取り組んでゆくことが、美しい大地と空、そして瑠璃色の地球環境保護への奔流になるという理念の元に取り組んでいます。

環境目標(Plan)	目標種別	単位	★参考★ 2023年度 実績	YC計(YH除く)			
				2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標	
1 二酸化炭素 <生産事業部> 単年2.5%削減 (2021~2030年) 2030年度▲30% 目標にて設定 (2021年度比)	CO2排出量の削減 (1-1~4の合算)		総量 kg-CO2	3,397,384	3,316,108	3,236,990	3,159,788
			原単位 kg-CO2/百万円	1,911	1,892	1,873	1,853
	1-1 電力使用量の削減	総量 kWh	7,327,741	7,150,300	6,977,600	6,809,100	
		原単位 kWh/百万円	4,121	4,080	4,039	3,998	
	1-2 ガソリン使用量の削減	総量 L	22,057	21,832	21,608	21,388	
		原単位 L/百万円	12.4	12.3	12.2	12.0	
	1-3 軽油使用量の削減	総量 L	544	538	532	526	
		原単位 L/百万円	0.306	0.303	0.300	0.297	
	1-4 灯油使用量の削減	総量 L	8,007	7,926	7,846	7,766	
		原単位 L/百万円	4.503	4.458	4.413	4.368	

できる事から、すぐに始めましょう。

- ゴミは決められた区分に、きちんと分別して廃棄しましょう。  
(分別廃棄ルールを守っていますか?)
- 不要な照明・冷暖房はきちんと消灯しましょう。  
(昼休み、不在時、退社時等に気配りができていますか?)
- 節水につとめましょう。  
(手洗場・トイレ等で、蛇口はきちんと閉じられていますか?)
- アイドリングストップを心がけましょう。  
(駐車場で気配りができていますか?)
- 積極的に社内外清掃を行いましょう。  
(社外の周辺清掃にも務めましょう)
- 「もったいないの気持」で何でも省資源につとめましょう。  
(丁寧な扱いと、気配り、気づきで省資源しましょう)
- その他、気づいた人が気づいた事から積極的に始めましょう。

## 6 環境教育の取組みーⅡ

### (2) 年間教育計画書による環境教育の実施及び実施結果

年間教育計画書を作成し、環境教育を実施しています。日常業務進行の中で、環境への取組について意思統一が図れるよう朝礼・会議などを利用する事や、外部への派遣研修、集合教育などを年度初めに検討しています。

【2024年度年間教育計画及び実施結果】（一部抜粋）

教育・訓練名	教育・訓練内容	参加者	目的	時期	講師	予定	進捗管理(実施月に記入)															
							4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
環境月間について 周知	基本的な事を繰り返し広報、および情報提供による周知継続	全員	EA21と環境問題についての理解深掘	通年	経営管理部 各部門長	各部朝礼で環境関連の話題を取りあげる。また、社内報へ記事掲載し、ご家族へも情報提供を心がける。および会社周辺清掃活動(オフ)から環境配慮周知を測った。	●	●		●												
ゴミの分別について	ゴミの削減、分別について周知徹底を図る	全員	廃棄物の発生抑制についての理解を深める	通年	環境推進員	廃棄物置き場の容器現物への区分表示徹底。排出担当者には都度指導継続する																
環境目標と 環境活動計画	全社及び各部門の環境目標及び環境活動計画を周知する。	各部門別	環境活動を展開する為	5月 10月	各部門長	実数および原単位管理などについて、推進委員会から各部門へ周知を図る。グラフ表示などの展開と環境活動計画は各部門にて運協、朝礼などを通じて周知した。	●															
特別作業教育	環境関連法規等にある有資格者、専門技術者に対する専門教育	特別管理者 取扱責任者	職務能力を保有する	必要場合は 随時実施	外部委託等	エネルギー管理企画推進者講習、防火管理者講習等、異動、その他理由により必要ある場合。																
緊急事態訓練	環境負荷に対する緊急事態が発生した場合の対応訓練	全社員	緊急事態発生時の確な対応	別途計画	消防署 BCP推進員等	火災および震災等のBCP運動訓練。救急救命法派遣訓練9月に実施、防災センター体験ツアー7月に参加							●								●	●
環境法規について の教育学習	環境関連法規の全般学習	環境推進員他	環境法令についての人材育成	通年	自己啓発 外部研修	環境関連法令について継続的に日常確認とともに法規について地道に学習を継続してゆく。推進会議内でも法令知識の共有を行う																
EA21/SDGs の周知教育	当社の環境経営方針、環境/SDGsへの取組の周知、理解	全社員	推進手段の周知および全体向上	通年	経営管理部 各推進委員	新入社員研修スケジュールへの組み込み 各部への情報発信(環境/SDGsへの取組紹介)	●															
内部監査の 進め方	内部監査に必要な知識の習得	内部監査員	環境経営システム維持のため	11月	環境推進員 既存の内部監査員等	11月の内部監査実施時に今期内部監査の最重点テーマを決め、監査チームに周知及び監査に必要な教育を実施する																
環境提案活動	環境に関する改善提案活動を進める	全社員	個人の環境意識向上	6月	各部門長他	6月環境の日および環境月間に合わせて実施。 (全体提出率は70.8%)																

### (3) 緊急事態の対応訓練

BCPの訓練計画に則り、毎年9月の防災週間、1月の防災とボランティア週間を利用し、緊急事態対応の訓練を実施しています。

訓練内容は、南海トラフ巨大地震発生を想定した安全確保行動から避難・誘導・通報・消火訓練や、環境への重大な影響を回避する為の火災・油庫・ガスボンベ等の安全を確認する緊急時対応訓練、また非常時の救命に備えての止血法や搬送法などの救命訓練、夜間の被災を想定した夜間訓練などです。

まず自分の安全確保を図るとともに、環境への影響や二次災害を未然に防ぎ、同僚や家族の安否確認を素早く行い、救急救命など緊急時の地域との協調がはかれるよう、今後も定期的訓練を継続してゆきます。



# 6 環境教育の取組み一Ⅲ

## (4) 社内報での環境活動及びSDGs関連広報

全従業員のご家庭に郵送している社内報  
に関連記事の掲載を続けています。

全員で取り組む事の重要性と各種活動への  
意思統一の為、また関連記事を掲載する事により、  
従業員のご家族にも理解や活動への取

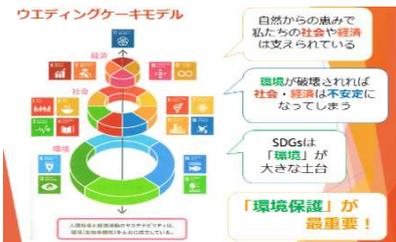
【2024年発行 社内報より】



## (5) SDGsの達成に向けた取り組み推進

「SDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）」の達成に向けた  
取組みを推進する為、SDGsに関連する自社の取組み事例紹介や教育を行っています。

【社内教育より一部抜粋】



## 7 地域社会との協調・貢献活動- I

### (1) 近隣地域のカーブミラー清掃や交通安全を願っての立哨活動



毎年、4月の『春の全国交通安全運動』に合わせて近隣地域のカーブミラー清掃点検活動を行っています。

今年度は川島本社付近のカーブミラーのクモの巣やほこりを丁寧に拭き取りました。

当社は、四季の交通安全運動強化月間（全国交通安全運動、交通事故防止運動）に「立哨の日」を設けて、県内事業所で交通安全の為に立哨活動を実施しております。

※地域の安全運転協会の活動に賛同して、会社周辺及び国道等で実施しています

こういった地域の皆様との活動を通して、私達自身も安全運転や交通マナーの向上を図ってゆきたいと考えています。

### (2) アドプトプログラムの継続実施

徳島県のアドプトプログラムである「リバーアドプト」「ロードアドプト」と協定を締結して14年が経過しました。（2008年から開始）

川島本社は吉野川沿いの学島橋から下流へ600mの区間、市場工場は切幡川島線の約1.1km区間の短い区間ではありますが、それぞれ年度計画に沿って清掃の日を定めて清掃活動を行っています。また、この二つの事業所のアドプト活動に合わせて、その他の事業所では一般公道や公共場所の清掃活動を実施しています。

ほんの小さな取組ですが、私達自身の環境美化への意識統一の為に、今後も地道に継続してゆきたいと思えます。



### (3) EV-TUKTUKを活用した地元活性と教育活動の継続

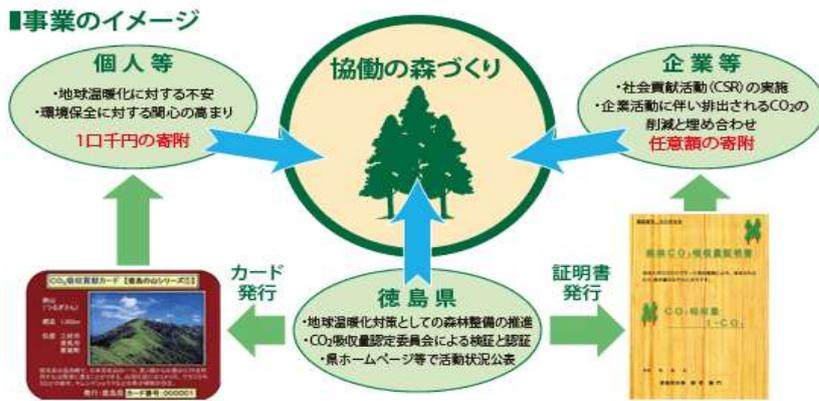


2018年に設立したタイの子会社にて、エンジニアの力を活かして、何かタイに貢献できる新規事業はないかと考えていた中、現地で社会問題となっている大気汚染や、タイ政府による、2022年にTUKTUKの電動化が課題となっていたことから、EV-TUKTUKの製造をスタート。2021年の夏には展示会に出展、2022年夏にタイで初めて販売へと至りました。

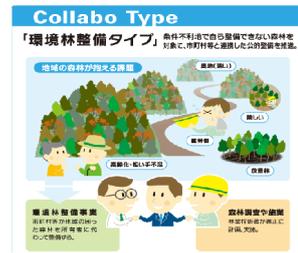
2023年2月にはEV-TUKTUK「とくTUK」のナンバーを徳島で初めて取得。国内でも走行が可能となったことから「とくTUK」を活用しながら、地元企業のものづくりや、環境保護への興味・関心を持ってもらおうと、同年5月からは吉野川市内のこども園や小学校への訪問授業を実施しました。現在では、地域活性化に取り組む合同会社川島えがお倶楽部と連携しながら、毎年継続的に子ども達を対象としたEV-TUKTUKの試乗体験や、カーボンニュートラルをはじめとする環境に関する授業を行い、地域イベントへの出展などを通じて、微力ながら地域活性や、環境問題への関心を高める一助となれているのではと考えます。

# 7 地域社会との協調・貢献活動Ⅱ

今年も、「森林保全活動」のパートナーシップ協定を締結しました。私達が身近に協力することのできる地域貢献活動の一環として「公益社団法人徳島森林づくり推進機構」が企画する「とくしま協働の森林づくり事業」へ継続参加しています。



【事業イメージ ※徳島森林づくり推進機構HPより】



この活動は、県内の森林を守り育てる為、徳島県と「森林保全活動」の協定を締結し、カーボンオフセットの仕組みにより、全員参加でCO2排出量の削減活動を後押ししようというものです。

実施に当たり、毎回従業員代表の方から積極的な参加表明を頂き、全社員の方からの寄附金と、会社からの同額加算にて徳島県の森林保護活動に運用して頂く事ができました。単年度で56.16t-CO2削減、5年累計で119.82t-CO2削減(2020年~2024年)の証明書を頂いており、CO2削減量を加算出来ますことに感謝しつつ、今後も継続していきたいと思いを。



【2024年協定式】



【森林CO2吸収量証明書】

★カーボン・オフセットによるCO2吸収量推移(単位 t-CO2)

年度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
CO2 吸収量 ※t-CO2)	51,498	51,498	51,498	51,498	51,498					
		34,970	34,970	34,970	34,970	34,970				
			49,050	49,050	49,050	49,050	49,050			
				57,880	57,880	57,880	57,880	57,880		
					50,710	50,710	50,710	50,710	50,710	
						44,860	44,860	44,860	44,860	44,860
							8,140	8,140	8,140	8,140
								8,140	8,140	8,140
									2,520	2,520
	5年計	51,498	86,468	135,518	193,398	244,108	237,470	210,640	169,730	114,370
累計	51,498	137,966	273,484	466,882	710,990	948,460	1159,100	1328,83	1443.2	1563

※:吸収量証明は5年間(証明書発行日より5年間有効)

## 8 2024年度 環境経営目標の実績及び評価

環境目標(Plan)	目標種別	単位	★参考★ 2023年度 実績	YG計(YH除く)			2024年度 (4~3月) 実績(Do)	評価(check)			未達の場合、要因分析 (check)	実施した対策(予定含む)、次期計画 (Action)
				2024年度	2025年度	2026年度		目標差	達成率	達成		
				目標	目標	目標						
1 二酸化炭素 <生産事業部> 単年2.5%削減 (2021~2030年) 2030年度▲30% 目標にて設定 (2021年度比)	CO2排出量の削減 (1~1~4の合算)	総量	kg-CO2	3,397,384	3,316,108	3,236,990	3,159,788	3,295,942	-20,166	100.6%	○	詳細下記(電気、ガソリン、軽油、灯油)  エアー漏れ改善やコンプレッサーの計画的な停止は効果が出ているため、来期も継続。また、エコタウンアワーズ店は太陽光の導入によって消費量を削減できている。  Web会議の促進は来期も継続 社有車変更の際はエコカーを優先する  Web会議の促進は来期も継続 社有車変更の際はエコカーを優先する  屋内で石油ストーブを使用する際には必要に応じ、空調機器の電源を切るなど、トータル のCO2排出量削減に取り組む  製造部門については研磨スラッジの有価処理割合を徐々に増やしていく(1~2割は処理 設備の安定稼働のため廃棄残っている)、リユース部門においては買取精度の向上 及び未生産ゼロへの取組を継続、もったいないボランティアに代わる仕組みも要検討  新工場の工事済で配管の対処はおおむね改善され、引き続き数値を確認する。  引き続き、PRTR法非対象の油利用推進及び新規油導入時のSDS管理、リスクアッセ メントを継続、SDSの更新  主要取引先より品質 特別賞をいただいている。 ルールの順守、標準化を継続。実用に向け検査機の開発を進めていく。  徳島市内エリアと関西エリアの商品交流の円滑化 在庫増強のため。買取増を目指す。  高効率部品(モーター、ベルト等)の採用継続 ※省エネ診断でのアドバイスを参考に  年3回のアドプトプログラム(吉野川、切幡寺付近)及び毎月15日の事業所近隣清掃、 徳島協働の森づくり事業への参画(カーボン・オフセット)は来期も継続実施  提出率が低い部門への呼びかけを強化して、底上げを図る
		原単位	kg-CO2/百万円	1,911	1,892	1,873	1,853	1,844	-48	102.5%	○	
	1-1 電力使用量の削減	総量	kWh	7,327,741	7,150,300	6,977,600	6,809,100	7,113,388	-36,912	100.5%	○	
		原単位	kWh/百万円	4,121	4,080	4,039	3,998	3,573	-507	112.4%	○	
	1-2 ガソリン使用量の削減	総量	L	22,057	21,832	21,608	21,388	21,264	-568	102.6%	○	
		原単位	L/百万円	12.4	12.3	12.2	12.0	11.9	-0.4	103.2%	○	
	1-3 軽油使用量の削減	総量	L	544	538	532	526	728	190	64.7%	×	
		原単位	L/百万円	0.306	0.303	0.300	0.297	0.547	0.244	19.4%	×	
1-4 灯油使用量の削減	総量	L	8,007	7,926	7,846	7,766	6,899	-1,027	113.0%	○		
	原単位	L/百万円	4.503	4.458	4.413	4.368	5.182	0.724	83.8%	×		
2 廃棄物	廃棄物排出量の削減 ※排出少ない(1,000kg未満) 部門は現状維持目標	総量	kg	213,232	211,265	209,169	207,093	182,733	-28,532	113.5%	○	
		原単位	kg/百万円	119.9	118.7	117.5	116.3	102.2	-16.51	113.9%	○	
3 総排水量	水使用量の削減 ※排出少ない(200㎡未満) 部門は現状維持目標	総量	m <sup>3</sup>	5,666	5,637	5,584	5,531	4,236	-1,401	124.9%	○	
		原単位	m <sup>3</sup> /百万円	3.19	3.15	3.80	3.76	2.37	-0.79	124.9%	○	
4 化学物質	化学物質の削減 ※100~150kgにて 現状維持目標	総量	kg	178.1	400.0	400.0	400.0	244.7	-155	138.8%	○	
		原単位	kg/百万円	0.1294	0.2907	0.2907	0.2907	0.1369	-0.1538	152.9%	○	
5 自社製品 /サービス	5-1 工程内不良の削減	総量	千円	17,197	14,400	13,800	13,800	18,622	4,222	70.7%	×	
	5-2 店舗運営による リユースの買取実績アップ	総量	千円	204,370	213,000	231,000	231,000	220,716	7,716	103.6%	○	
	5-3 省エネ対応製品推進 (高効率部品の採用率)	%	90 ≤	90 ≤	90 ≤	90 ≤	90 ≤	-	-	○		
6 地域貢献	7-1 周辺地域の清掃活動		-	-	年三回の実施			-	-	-	○	
	7-2 環境イベントの実施		-	-	全員参加			-	-	-	○	
7 社員教育	環境教育の開催及び 環境改善提案の全員提出	%	63.6	65.0	67.0	70.0	68.5	-3.50	105.4%	○		

※電力使用量のCO2排出係数は、令和5年度調整後排出係数  
 四国電力:0.454kg-CO2/kWh、関西電力:0.434(kg-CO2/kWh)を使用  
 ガソリン:2.32(kg-CO2/L) (kg-CO2/L) 軽油:2.58(kg-CO2/L) 灯油:2.49(kg-CO2/L)  
 ※原単位(エネルギー使用に密接に係る値)は全社売上総利益(製造部は加工高)を採用  
 基準年度(2023年度平均)全社売上総利益:1,778(百万円)  
 (項目によっては関連部門のみの合算にて計算とする)  
 ★補足  
 2024/4 ・新規策定  
 2025/5 ・化学物質の原単位目標計算誤りにて修正変更(全社、3工場)

# 9 2024年度 環境経営計画の実績及び評価

← 担当部署 →

No.	環境目標	取組項目	(生産事業部)	(流通事業部)	(経営管理部)	実施時期/期限	実施事項	結果確認	次年度取組
1	CO2排出量の削減	単位当り生産性の向上による稼働時間の短縮	○			通年	中部産業通望様からのコンサルティングにより生産性向上 使用工具の選定により加工時間の短縮	○	継続推進
		省力化機器検討と取り組み(機械部品、照明、エアコン)	○			通年	エアコンの適正温度管理と送風機の活用、使用規定の順守、定期清掃 エアー改善の取組み、7大ロスの取組み 未使用時の電灯OFF、不要照明の消引き 省エネ対応エアコン使用/入れ替え推進、換気 屋外照明点灯時間のタイマー調整、LED照明への順次切り替え	○	継続推進
		生産性カイカクの推進実行、作業改善によるムダの排除	○	○	○	通年	役職者による「困りごとのぬい上げ」で作業改善 組立時専用工具使用による作業効率化	○	継続推進
		ライン停止時の電源OFF、エアー漏れ削減	○			通年	定期的なエアー漏れ改善	○	継続推進
		稼働時間の抑制とノ残業DAYの実施	○	○	○	通年	週単位の稼働計画作成で労務管理・残業の平準化 生産進捗の管理表での生産管理見える化	○	継続推進
		退社時間の短縮、残業時間の短縮	○			通年	作業工程の負荷変動による残業時間の抑制(ゼロ残業推進)	○	継続推進
		未使用時の電源OFF、冷暖房の基準厳守など	○			通年	切忘れ防止の為、タイマー設定を活用し稼働時間を削減	○	継続推進
		エコドライブ運転の徹底、走行ルート最適化	○	○	○	通年	安全運転管理者からの部内周知徹底 朝礼等で呼びかけ 新工場関連工事に伴う出社時の交通安全の呼びかけ 各人通勤ルート最適化	○	継続推進
		定期的な車両の点検	○	○	○	月/2回	2回/月点検及び社用車運転管理表へ記録実施継続	○	継続推進
		Web会議の推進(移動時間と燃料費削減)	○	○	○	通年	Web会議の有効活用	○	継続推進
		備品の管理	○	○	○	通年	使用量の見直し、エコ商品の購入	○	継続推進
		エアコンの定期清掃、効率的利用	○	○	○	6-10,12-3月	お客様が不快に思わない温度設定の見直し 定期的なフィルター清掃	○	継続推進
		店内換気によるエアコン使用削減	○	○	○	通年	店内換気によるエアコン使用削減	○	継続推進
		2	廃棄物の削減	刃具、砥石、治工具類の寿命アップ	○			通年	再研バイトのテスト実施、可否を周知して運用 生研ヤケ材料用のテスト実施、輪研バイトの研究 方法見直し 材質に応じた刃具・コーティングの選定により寿命UP
使用可能部品の再利用	○					通年	治工具置場の2Sの徹底管理で過剰在庫の抑制 電気部品の再利用 使用可能部品リストから部品再利用の推進	△	継続推進
分別徹底によるリサイクルへの排出継続	○			○	○	通年	リサイクル可能品の分別、段ボール/木パレ等の再利用、新入社員への分別指導徹底	○	継続推進
二次リユースの活用	○			○	○	通年	もったいないプロジェクト・エコミットの活用と周知	○	継続推進
季節商品の売り切り	○			○	○	通年	初期売価・セール時期の見直し	○	継続推進
紙の廃棄量削減、ペーパーレス推進	○			○	○	通年	表裏印字、集約印字、電子化(年度方針、改善提案等)、プロジェクト活用	○	継続推進
3	総排水量の削減	研削液、切削液の使用改善	○			通年	濃度pHの適正管理 切削液付着切粉除去方法の改善付着	○	継続推進
		生研研削油の再生使用	○			通年	生研研削油をろ過して再利用を継続	○	継続推進
		月の水道利用量を確認し使用量の減少に努める	○	○	○	通年	使用量の見え化(事務所掲示)	○	継続推進
		各事業所の浄化槽保守状況管理	○		○	通年	全事業所把握済み	○	継続推進
4	化学物質の削減	SDSの適正管理	○			通年	新規使用油及び塗料使用時はデータを取得し確認	○	継続推進
		化学物質のリスクアセスメント調査	○			通年	新規使用のものは都度リスクアセスメントの実施	○	継続推進
		各種置き場の設定と明示	○			通年	塗料置場表示と在庫管理	○	継続推進
5	自社製品/サービス	重点取り組み工程選定継続	○			通年	不良内容の見える化の継続と廃却金額の目標管理 ワークラインへの重点取り組み 提案、自主研、職制改善継続 不良・廃却品の削減(落下不良品含む)	○	継続推進
		積極営業によるリユースの認知度アップ	○			通年	OH時の再利用によるコストダウン	○	継続推進
		高効率モーター使用の推進	○			通年	設計時の高効率モーター使用の設計推進	○	継続推進
		鋳造取り代削減	○			通年	客先へのVA・VE提案によって取り代削減	○	継続推進
		省エネ対応機器使用の推進	○	○	○	通年	コンプレッサー・エアコンを省エネ機器へ変更	○	継続推進
		SNS活用による買取件数アップ	○	○	○	通年	X(旧Twitter)にて情報発信、LINEクーポン活用	○	継続推進
		買取幅を広げた柔軟な買取	○	○	○	通年	未生産をゼロにし、見本となる商品を売場にて展開	○	継続推進
		出張買取促進による買取金額アップ	○	○	○	通年	運営改革課・店舗間で協力体制強化	○	継続推進
事務局業務の習熟	○	○	○	通年	事務局関連業務の引き継ぎ、入力作業の効率化/負荷分散	○	継続推進		
6	地域社会との協調	地域への清掃活動	○	○	○	通年	アプト(年3回)または公共場所の清掃(毎月)実施	○	継続推進
		CSR推進	○	○	○	通年	募金、森林保全活動(カドオファクト)、交通安全立哨他	○	継続推進
7	社員教育	SDGsの取組推進	○	○	○	通年	各部朝礼や社内会議での紹介/教育、障がい者雇用/委託の推進	○	継続推進
		環境への取組についての広報	○	○	○	通年	朝礼/環境管理版での見える化で周知、YQI(生産)、RE共有MTG活用、社内報掲載等	○	継続推進
		環境改善提案推進	○	○	○	6月	環境月間の広報周知(掲示資料の工夫)、省エネ改善提案の具体例提示等	○	広報周知継続
		緊急時の対応と訓練	○	○	○	9.13月	各事業所にて防災訓練実施(火、油、塗料の漏洩対策の教育と訓練継続/工場)	○	継続推進
		ピカピカ運動の推進	○	○	○	通年	工場内外の5S取り組み一床の塗装、油漏れ改善	○	継続推進
環境関連法令の知識習得	○	○	○	通年	環境関連セミナー参加、新入社員研修への教育組み込み/勉強会実施等	○	継続推進		

※評価基準: ○…効果があった(今後も継続) △…更に継続強化する事が必要 ×…効果が感じられない



# 11 環境関連法規制の遵守状況の確認、評価の結果、訴訟の

環境関連法規制などの遵守状況の評価の結果、環境関連法規制は遵守されていました。また、関連機関及び近隣からの違反の指摘、訴訟なども過去3年間ありません。

法的義務を受ける環境関連法規制（主要抜粋） 遵守状況（○…適合 ×…不適合）

分類	法令	項目（事業者の責務など）	評価	法令	項目（事業者の責務など）	評価
法令	廃棄物処理法	①廃棄物の適正処分 ②委託基準の遵守 ③保管基準の遵守	○	建築物省エネ法	・特定建築物（エネルギー消費性能基準への適合） ・特定建築物以外（消費性能確保計画の届出）	○
	騒音規制法	①騒音レベルの遵守 ②届出：騒音発生施設を新規設置する場合	○	地球温暖化対策推進法	温室効果ガスの排出抑制と定期報告	○
	PRTR法	事業活動に伴う第一種指定化学物質の排出量及び移動量を把握する	○	消防法	・危険物の取扱（指定数量以上の危険物を貯蔵しない）	○
	浄化槽法	①法定検査 ②保守点検 ③清掃	○	容器包装リサイクル法	特定事業者 ・再商品化義務量の再商品化（委託および委託料）実施 ・帳簿の備えと5年間保存	○
	下水道法	公衆衛生の向上、公共用水路の水質保全に資する事 （別途申請が必要なケース：当社は該当無し）	○	家電リサイクル法	小売業者の義務 ・引取義務 ・引き渡し義務 ・管理票の交付	○
	グリーン購入法	環境負荷の少ない物品の調達促進	○	環境基本法	・事業者は公害を防止し、自然環境を適正に保全する措置を講ずる	○
	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理に関する特別処置法	適正に処分、国及び地方公共団体施策に協力 ①期間内処分 ②保管などの届出	○	循環型社会形成推進基本法	・事業活動に置いて原材料が廃棄物になる事を抑制する	○
	フロン排出抑制法	①簡易点検、定期点検の実施 ②速やかな漏えい箇所の特定・修理及びこれらの記録	○	水質汚濁法	・油水分離槽の法定点検の実施（設置から15年以内は3年に1回、それ以上経過したものは年に1回実施）	○
	省エネ法	①統括者、企画推進者の選任 ②中長期計画の提出 ③エネルギー消費原単位等の年平均1%低減	○	工場立地法	・工場敷地の20%以上を緑地として確保（樹木・芝生含む） ・緑地面積を含めた環境施設面積は、敷地面積の25%以上が必要（修景施設や運動場、太陽光発電設備なども含む）	○

分類	条例	評価	条例	評価
条例	徳島県気候変動対策推進条例	○	吉野川市下水道条例	○
	徳島県環境基本条例	○	徳島中央広域連合火災予防条例	○
	徳島県生活環境保全条例	○	阿波市環境基本条例	○
	徳島市環境基本条例	○	阿波市公害防止条例	○
	徳島市廃棄物の処理及び再利用に関する条例	○	阿波市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	○
	徳島市公害防止条例	○	神戸市下水道条例	○
	吉野川市環境保全条例	○	神戸市廃棄物の適正処理、再利用及び環境美化に関する条例	○
	吉野川市における廃棄物の処理及び清掃に関する条例	○	藍住町廃棄物の処理及び清掃に関する条例	○

※対象期間 2024年4月1日～2025年3月31日 評価日 2025年4月25日

# 12 マネジメントレビュー

●代表者（社長 横田勝己）の評価/指示

実施日 2025年5月1日

項目	変更有無	必要な指示
環境経営方針の見直し、変更	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
環境経営目標の見直し、変更	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
環境経営計画の見直し、変更	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	工場の遮熱対策や老朽化設備の更新については費用対効果を考慮しながら、進めていって下さい
役割分担と責任、権限の見直し 変更	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	EA21 事務局変更(安部⇒辰己)について 必要に応じて、教育/研修機会を設けて下さい
システムに関する 見直し、変更	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
その他EA21に関すること	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

## <その他指示事項>

●電気代についてはここ数年で従来の1.4~1.5倍まで上がってきており、大きな経営課題となっていますので効果を見込める施策を調査、優先的に実施していきましょう。また、お客様からのカーボンニュートラルに関するご要請にお応えしていくためにも、今期よりスタートしたカーボンニュートラル分科会活動への参加を通して、他社の好事例を自社で横展開出来るように内容の大小に関わらず具体化していって下さい。

●工程内不良の削減については現在開発中であるバイト欠け検知の検査機が実用化されれば、改善が見込めると思いますので精密加工部、機械部で協力しながら対応を進めていきましょう。

●リユース部門の廃棄ロス削減取り組みについては、もったいないボランティアプロジェクトに代わる新しい仕組みの検討、導入をお願いします。